

別記様式(第5関係)

会 議 録

会議の名称	第4回西東京市高齢者保健福祉計画検討委員会
開催日時	平成20年8月5日(火曜) 午後2時55分から午後4時5分まで
開催場所	西東京市役所 田無庁舎5階502・503会議室
出席者	(委員)北澤委員、畠山委員、平野委員、陸名委員、阿委員、須加委員、五十里委員、中村委員、豊富委員、齊藤委員(欠席:橋岡委員、織田委員) (事務局)福祉部長、福祉部参与、高齢者支援課長、高齢者支援課主幹以下4名
議 題	1 第3回会議録の確認について 2 高齢者福祉サービスについて 3 後期基本計画(総合計画)案の中間答申について
会議資料	1 高齢者保健福祉計画検討委員会第3回会議録 2 年齢・対象別高齢者福祉サービス一覧 3 都内区市町村における家族介護者等への支援事業一覧 4 西東京市基本構想・後期基本計画案 中間答申(抜粋) 5 西東京市後期基本計画案 中間答申(概要版) 6 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定検討の枠組み(8月) 7 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画施策調査まとめシート
会議内容	全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録

1. 開会

2. 配布資料の確認(事務局)

3. 議題

(1) 第3回会議録について

会議録の確認、特に問題なし。

(2) 高齢者福祉サービスについて

事務局: 資料2・資料3について説明

委員: 他市との比較表の内容を確認したが、家族介護者に対する10万円の慰労金

は東京都全体で20区8市の自治体で制度があるのに、全部で30人しか利用していない。かなり利用条件が厳しいので、見直す必要があるのではないか。特に西東京市は条件が厳しいので1人しか受けていない。その点、日野市では寝たきり高齢者介護手当を月に1万円給付しているが、利用者が119人で「やさしさ」が感じられる。介護者教室は西東京市の場合は、年1回で6日間、参加者は20人ということであるが、この内容でよいのか。新宿区などでは参加した人の交流会が行われている。中身を変え、人を集めて仲間を増やしてほしい。市として介護教室についてどのような考えがあるのか。

事務局：年1回6日間で実施しているが、社会福祉法人に委託して実施している。

20人という少ない参加者ではあるが、施設の受け入れ体制などの問題から難しい状況もある。

委員：実際に講習を受けると、今後の介護に大変役立つ。またその後、情報を伝達する方法をつくれなにかと思う。

委員：実際に介護している人が6日間出席するのは難しいと思う。本当に必要な介護者にとって6日間は難しい。6日間で20人ではなく、2日間で60人とし、広く介護に必要な知識を広めてほしい。短期でも大変有効である。介護教室の中身を検討してほしい。また、慰労金10万円については、該当者は少ないと思う。もう少し利用しやすい、市として介護者にやさしさをもってほしい。

事務局：現在、家族介護の講習会は6日間ということであったが、検討させていただき、より多くの方が様々な知識を習得し、よりよく介護できる状況を作っていきたい。

副委員長：慰労金のことですが、これは国の作った制度であるので仕方がない。市にお願いしたいのは、板橋では認知症の家族支援プログラムがあるが、西東京市においても認知症と家族の会といった自発的にやっているところをもっと支援してほしい。介護をしている人の大変さを支えるのが重要なので、当事者グループをどう支援していくのかを保健師や地域包括支援センターや社協の方などと一緒に考えていってほしい。

委員：認知症の方の家族を支えることは重要である。今問題となっている虐待も、ほとんどが認知症に関するものである。千代田区のような家族への支えが今少ないと思う。介護教室は6日間なので、厚く深く介護全体を勉強するものであり、参加者には家族介護者でない方もいた。実際に家族の方が勉強する

ものは、日数を少なく、回数を増やした方がよいと思った。

委員：資料4の57ページの施策展開の主な取り組みで、キャラバンメイトの養成を含めることが必要ではないか。もう1点は、可能であれば、利用者の融通性を考えていただき、移動支援を増やしていただきたい。はなバスの話もでていますが、一般の福祉施策でやっていただけないか。

委員：現在の移送サービスについては、地域の皆さんの意見を伺うと、小回りのきいた移動という要望が以前から出ている。車の運転のボランティア希望の方もいるが、事故補償の問題などもあり、住民で出来ることには限りがある。以前、介護者家族の当事者の方の組織化を行っていたが、地域で相談や援助をやっていくだけの体制が社協になく、なくなってしまった。自然なかたちの組織化を、来年度のふれあいのまちづくりに取り入れていきたい。

委員長：移動サービスや今あるサービスの内容を見直し、組み替えの意見や、認知症の方に対する家族支援についてもより良い方法を見つける必要があることをご検討いただきたい。また、介護保険を含め様々なサービスが繋がっていく仕組みを検討してほしい。

(3) 後期基本計画（総合計画）案の中間答申について

事務局：資料4・資料5について説明

委員：55ページの稲城市の例は、水道局と提携するということであるが、その他新聞店と提携し、異常があった場合は、連絡が来て見守りができるようになっている。また、資料に誤植が多い。その他65ページは随分古い数字を使っているのので、新しい情報に変えるべきである。2ページのグラフの場所がおかしい。(2)他都市との比較については、5市で比較しているが、場所の離れた狛江市も含まれており、この5市の比較は意味が理解できない。

委員：基本計画と構想の段階なので具体的には言えないが、サポーター講習会を実施しているが、その方たちがどう活動していくかが大事である。行政と市民が協働で活動していくことが重要である。せっかく市民と行政が協働していく体制が出来たので、これからは構想や計画だけで終わらないで、ぜひ皆さんに具体的な方向に進んでいくようお願いしたい。

委員：構想では、東京都から市に65歳の健康寿命を提出していると思うが、行政と市民との協働は重要であるが、数字で見ると都の中でも65歳の平均寿命は

上位にあるので、そのうえで市民と行政の協働をすすめてほしい。

委員：あちこちに拠点という言葉がでており、キーワードなのかと思う。一人の人を連携した支援、マネジメントできる拠点というものを福祉会館や地域包括支援センターを拠点として場所を活用していくことを取り込んでいけたらよい。

委員：生活援助をもう少し取り入れてほしい。災害弱者の方の拠点として、福祉会館などの福祉施設で収容できる方法を入れてほしい。

委員：地域包括支援センターが今後高齢者と一緒にどう歩み、地域包括支援センターをどう活用するかが今後の課題となると思う。高齢者支援課と一緒につめていきたい。

委員：地域包括支援センターの業務が広範囲であることが心配である。ゆりかごから墓場まで、広く浅くにならざるを得ない。地域包括支援センターに責務を負わせるのであれば、行政が人材の確保や財政面の支援をしていかなければならない。

委員：元気な方も一緒にというのが地域包括支援センターであり、いい意味で浅く広くが地域包括支援センターである。点と点をつないでいくのが役割である。また、仕組みも変わり法人だけに人材を任せていくのは難しい。

委員：地域包括支援センターは昨年出来たが、全国的にまだ活発に活動していないようである。地域包括支援センターは、場所としてもなかなか行けないような所にあるが、せっかくできた組織である地域包括支援センターは活用していきたい。そのためにも、ささえあいネットワーク協力員は300人いるので、そういう人を組織的に継続的に動かしていくことが必要である。市民と行政が手をつないで動かしていくなんとかこれがうまく動いていくようお願いしたい。

委員：社協は、特に高齢者に関しては相談業務を始め地域包括支援センターと連携しないと機能しないのが現状である。そのためにも専門性をもって様々な事を受けてとめなければならない。拠点という話もあったが、生きがい推進事業なども含めた元気高齢者の支援など、役割を分けていいと思う。市民にまだまだ周知されていないで、社協と地域包括支援センターと市との連携を努力していかないといけないと思う。

委員：広く浅くは、もちろん専門性を高めてということである。場所としても、

地域包括支援センターの知名度を上げるためにも、はなバスの運行も含め市民の人に利用しやすいようになるとよいと思う。

委員：西東京市の地域包括支援センターの認知度は53.3%であり、これは少ないと思う。また、第3期の計画数値をすでに現状が超えているのは問題である。国勢調査の結果では、団塊ジュニアが8～9年間にわたり3000人の固まりとなっているので、留意してほしい。

委員長：「都市部のコミュニティの希薄化」は常套句ではあるが、自己否定であり、こういう言葉の使い方はしない方がよいのではないか。福祉サービスの中に保健も医療も含まれているが、福祉と保健は別になっているので、分けた方がよい。生きがいの中に就労が入っているが、そこまで余裕はなく、生活費のために就労する高齢者が多いと思う。少し認識が違おうと思う。高齢者のとらえ方をもう少し細かく捉えて行くべきである。また男女の性差のこともある。性差に基づいた分析はほとんどされていない。分析が浅いので、計画に反映されてこないと思う。ぜひ、この資料を基にさらにご検討いただきたい。

(4) その他

事務局：次回は9月9日（火曜）午後2時45分から、場所は防災センター講座室2である。

4. 閉会